

**健康増進のための市町村に対する  
補助金の書類作成・審査を効率化  
したい！**

**実証実験報告書**

**codeless technology株式会社**

**×**

**健康対策課**

# 目次

<b>1. 実証実験の概要</b>	<b>3</b>	<b>3. 課題と今後の展開</b>	<b>12</b>
1-1 背景・目的	4	3-1 サービス/システムにおける課題	13
1-2 対象となる業務の全体像	5	3-2 導入に向けての課題と解決策	14
1-3 目標・KPI	6		
<b>2. 実証実験の結果</b>	<b>7</b>	<b>4. 参考資料</b>	<b>15</b>
2-1 KPIに関する結果	8	4-1 成果物（制作物）紹介	16
2-2 工夫したポイント	10	4-2 サービス/システム紹介	17
2-3 実証実験で得られた発見	11		

# **1. 実証実験の概要**

## 1-1 背景・目的

### 補助金業務における「膨大な手作業」からの脱却

愛知県の健康増進事業費補助金業務は、県内市町村を対象とし、申請から実績報告までの一連のプロセスにおいて、膨大な量の書類作成と審査業務が発生していた。

従来のExcelと紙を主体とした運用では、以下のような課題が深刻化していた

- ・長時間労働の常態化

1申請あたりのチェックに約90分を要し、職員二人がかりでの対応が必須

- ・ミスの発生と手戻り

手打ちによる計算が多く、数値の誤りや転記ミスが多発。市町村への電話での修正依頼や書類差し替えに多大な時間を費やす

- ・業務の属人化

担当者の異動が多く、作成に不慣れな職員の負担が大きい



### <ゴール設定>

本実証実験は、「そのままDX」を活用し、申請受付から審査、集計までの作業を効率化させることで  
**審査の正確性を保ちながら作業時間を抜本的に短縮すること**を目的とする

## 1-2 対象となる業務の全体像

健康増進事業費補助金業務は、年度ごとに「計画申請→交付申請→変更交付申請→実績報告」などのサイクルで実施され、国、県（健康対策課）市町村（53団体）間で多量の書類のやり取りと審査が発生している。

登場主体	主な業務内容	業務上の課題/問題点
市町村（53団体）	申請書・報告書等の <b>作成・提出</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>不慣れな担当者が多いため、<b>入力場所や数値の誤り</b>が多発している。</li> <li>「計算式と計算後の数値の食い違い」や「記載漏れ」が多い。</li> </ul>
県（健康対策課）	書類の <b>審査、修正依頼</b> 、国への報告書の作成（ <b>集計・転記</b> ）	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>膨大な書類を二人がかりでチェック</b>している。</li> <li>正確性を保つため<b>電卓をたたく地道な確認作業</b>を繰り返している。</li> <li><b>1申請のチェックに約45分</b>を要し、作業時間が多大である。</li> <li>紙ベースでの管理も行っているため、<b>二重管理</b>の手間がある。</li> </ul>

## 1-3 目標・KPI

申請・審査・集計に関わる一連の業務を効率化し、双方の作業時間と心理的負担を軽減する。

### ①県担当者の審査処理時間



市町村から提出された申請書1件あたりの、県担当者による確認・審査にかかる時間

現状値

90分

目標値

30分

### ②国提出用データ集計時間



全市町村データを集約し、国指定様式へ転記・集計するために要する時間

現状値

180分

目標値

20分

### ③市町村担当者の満足度



新システムの操作性や負担軽減効果に関する、実証実験に参加した市町村担当者からの評価

現状値

19.1%

目標値

30%

## **2. 実証実験の結果**

## 2-1 KPIに関する結果

### 県担当者の業務時間を削減

#### KPI①県担当者の審査処理時間

申請1件あたりの審査時間を**78%削減**



結果：目標30分に対し、20分を達成

手動での検算が不要となり、システム上のチェックに集中できたことで大幅な時間短縮を実現。

#### KPI②国提出用データ集計時間

国提出用データの集計時間を**97%削減**



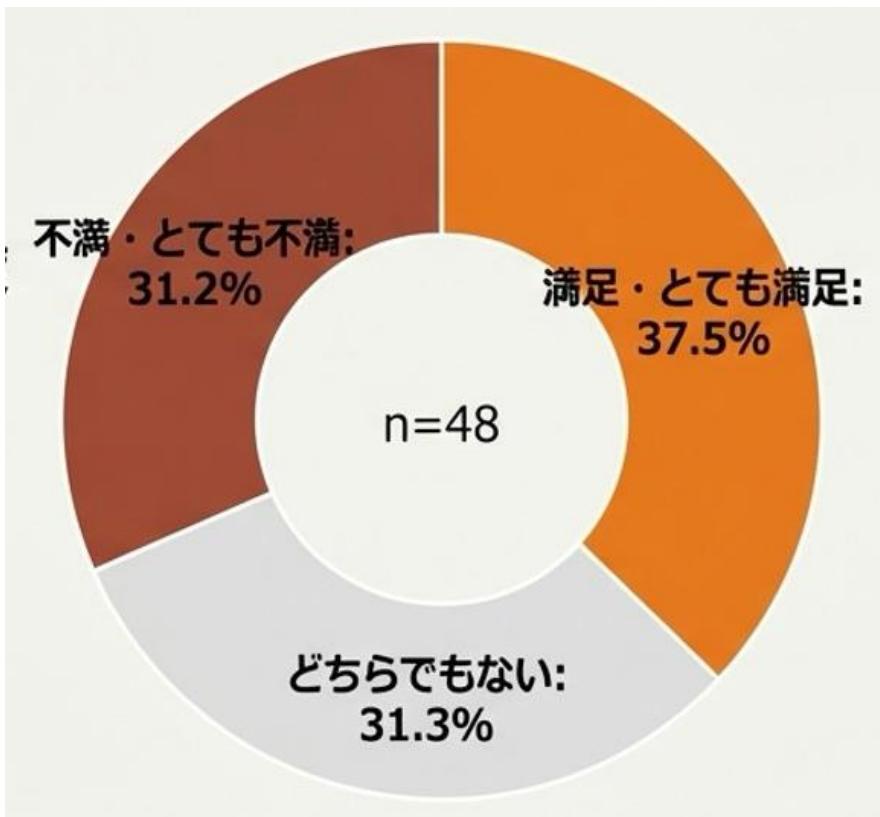
結果：目標20分に対し、5分を達成

各市町村から提出された構造化データをCSVで一括出しし、国様式へ貼り付けるだけで集計が完了。手作業でのコピー&ペーストが完全に不要となった。

## 2-1 KPIに関する結果

市町村担当者の満足度は目標達成、しかし評価にはばらつき

### KPI③市町村担当者の満足度



「満足」「とても満足」と回答した割合が37.5%

#### 結果：

- 目標の30%を上回る37.5%を達成
- 「差し戻し・修正対応がスムーズになった」という評価の一方で、「入力しにくくなかった」という意見も見られ、評価が二分化する結果となった
- この結果から得られた具体的な発見事項は後述

## 2-2 工夫したポイント

従来の業務フローを尊重しつつ、デジタルならではの効率化を追求

### ポイント1：統一Webフォームによる入力体験の刷新

複数に分かれていたExcelシートを、スクロール形式の単一Webフォームに統合。シート間の移動や転記ミスを構造的に排除した。

---

### ポイント2：自動計算とマスタ連携による入力補助

人口に応じた基準単価の自動反映や、各項目の合計値をリアルタイムで計算する機能を実装。手計算や目視確認のプロセスを大幅に削減した。

---

### ポイント3：システム内のコミュニケーション完結

修正依頼や確認をシステム上のワークフロー・コメント機能で対応可能に。電話やメールでの煩雑なやり取りを軽減し、修正履歴をシステム内に記録することで、担当者間の情報共有を円滑化した。

## 2-3 実証実験で得られた発見

### 差し戻し・修正プロセスの効率化は高い評価

アンケートの自由記述から、本システムのコンセプトが市町村担当者にもたらした価値が確認できた。



#### 差戻し・修正の円滑化

「修正や提出方法が簡単だった。」

「修正はどこを修正するかがわかりやすかったのでよかったです。」

「差戻の際に、コメントでご指示いただけるのはありがとうございました。」



#### コミュニケーションコストの削減

「データのやりとりはメールに添付等の手間が省けるのでスムーズになると 思います。」



#### エラーの可視化

「入力に不備がある場合、赤くなっているため 気づきやすい。」

#### 結論：

目的としていた「オンラインでの申請や修正依頼」は、  
県・市町村担当者双方の負担軽減につながるという実証を得ることができた。

### **3. 課題と今後の展開**

## 3-1 サービス/システムに関する課題

### 操作性 (UI/UX) と業務プロセスに課題

「入力作業」のフェーズにおいて、操作性や既存の業務プロセスとの乖離に関する課題が浮き彫りとなつた。



#### Category 1: パフォーマンスの問題



「動作が遅い…開くのも保存するのも、セルを選択して入力できるようなるのもすべて遅い。」



「システムが固まってしまい、稼働できない時間があった。」



#### Category 2: 操作性 (UI/UX) の問題



「Enterキーや方向キーで移動できず、毎回マウスで指定しないといけないので不便だった。」



「決裁用にPDF出力してみたところ、表の途中で切れた。」



#### Category 3: 既存業務プロセスとの 乖離



「結局もともとのエクセルを使って作成したのち、わざわざ指定の入力項目に変換して改めて打ち込む作業が1時間増えただけに感じた。」



「部署内で同様のExcel表に入力をしておき転載する…という事務になりそうだと想定しました。」

## 3-2 導入に向けての課題と解決策

頂いたフィードバックに基づく、3つの重点改善項目



### ① 操作性の改善

**課題**

- クリック/完了が多く入力が遅い
- コピペ・一括入力がしづらい
- LGWAN経由で遅延・フリーズ

**解決策**

- Enter/tab/方向キー等の入力効率化機能の開発
- 軽量化／回線前提の性能改善



### ② 入力の柔軟性

**課題**

- 長文を入力できる欄において、表示が見切れてしまう
- 自治体ごとの総人口をマスターとして設定するのが手間かかる

**解決策**

- 長文表示（折返し/拡大）対応機能の検討
- 各市町村側で、総人口を入力させ、その値に応じて基準単価を自動的に設定できる機能の検討



### ③ 国様式への対応

**課題**

- 様式確定前は手戻りが大きく、全ての国提出様式への対応が未完状態
- 500枠追加を行った状態でのフォーム化は重くなる懸念

**解決策**

- 様式決定後、CSV貼り付け→国様式への自動転記処理を完成させる。
- まずは500枠追加を行ったフォームを作成し、動作について確認

※ 本格導入に向けては、様式確定と性能検証を並行しながら仕様を協議

## 4. 參考資料

## 4-1 成果物（制作物）紹介

### 既存の申請Excelをもとに、Web入力フォームを作成

モード選択: A テキスト入力 手書き 確認

別紙1 健康増進事業費補助金精算書

1. 精算額内訳

区分		総事業費	収入予定額 (寄付金その他の収入額を含む)	差引額 ((A-B))	基準額	対象経費の支出予定額	還定期 ((D)、(E)のいずれか少ない額)	補助基本額 ((G) × 補助率) 補助率2/3 自己負担額のみ補助率10/10	既交付決定額 ((H)-(I))= (J)	差引過不足額
		(A)	(B)	(C)	(D)	(E)	(F)	(G)	(H)	(I)
健	健康教育費	円	円	円	円	円	円	円	円	円
	健康相談費	0		0			0	0	0	0
	健康診査費	0	0				0	0	0	0
	(1)健康診査費	0		0			0	0	0	0
	(2)歯周疾患検診費			0			0	0	0	0
	(3)骨粗鬆症検診費			0			0	0	0	0
促進事業	(4)渡航費			0			0	0	0	0
	(5)健康診査実施連絡等費			0			0	0	0	0
	(6)肝炎ウイルス検診費			0			0	0	0	0

マスタ検索

検索条件なし 54件中 (1-54)件表示

選択	名前	表示	人口	健康教育基準単価	健康相談基準単価	訪問指導基準単価
<input type="radio"/>	名古屋市		2,331,264	1,729,000	1,934,000	608,000
<input type="radio"/>	豊田市		414,531	1,729,000	1,934,000	608,000
<input type="radio"/>	岡崎市		381,268	1,729,000	1,934,000	608,000
<input type="radio"/>	一宮市		372,927	1,729,000	1,934,000	608,000
<input type="radio"/>	豊橋市		362,810	1,729,000	1,934,000	608,000
<input type="radio"/>	春日井市		303,833	1,729,000	1,934,000	608,000
<input type="radio"/>	安城市		185,718	920,000	483,000	209,000
<input type="radio"/>	豊川市		183,812	920,000	483,000	209,000
<input type="radio"/>	西尾市		167,145	920,000	483,000	209,000
<input type="radio"/>	刈谷市		154,067	920,000	483,000	209,000

検索条件

名前 検索値 部分一致

人口 検索値 部分一致

健康教育基準単価 検索値 部分一致

健康相談基準単価 検索値 部分一致

訪問指導基準単価 検索値 部分一致

検索実行

検索条件をクリア

項目を選択してください キャンセル 選択を確定

複数シートに分かれていた様式をつなぎあわせ、一つのWeb入力フォームとして作成

市町村名を選択するだけで、設定された総人口・基準単価が適用され、自動的に計算が行われるように設定

## 4-2 サービス/システム紹介

既存の書類を送るだけでシステム化・データ管理を実現する「そのままDX」



### ① 既存の帳票を送るだけ



「そのままDX」はまず、お使いの帳票をそのまま送るだけでデジタル化が始まるのが特徴です。紙やPDFなどの既存書式に対応しており、書式を変更する手間も不要。煩雑な準備やツールの導入が不要なので、現場の負担を最小限に抑え、スムーズにスタートできます。データ入力業務にかける時間とコストを大幅に削減し、作業効率を高める最初のステップです。

### ② 入力フォームが自動生成



自動生成される入力フォームが「そのままDX」の強みです。紙の帳票を取り込むだけで、AIが必要な項目を抽出し、Web上やスマートフォンで入力可能なフォームを即座に作成。デザインやレイアウトにこだわる必要もなく、設定に時間を割かずに入力可能になります。これにより人為的な入力ミスが減少し、正確なデータ収集が可能となります。また、既存の業務フローを大きく変更することなく、迅速に導入できる点が大きなメリットです。

### ③ データを使った業務改善



収集したデータを活用することで、業務の可視化と分析が飛躍的に進み、改善の余地を明確に把握できます。紙のままだと見えにくかった処理状況やボトルネックも、数値やグラフで一目瞭然。担当者ごとの作業進捗やプロセスの重複を洗い出し、迅速に改善策を打てるため、作業時間の短縮やコスト削減を実現します。さらに、蓄積データをもとに将来の需要予測や品質向上にも役立てることが可能です。